

保育者養成課程の「日本語表現」における振り返り活動の実態調査 — 学習者の実情に着目して —

A Survey on Reflective Activities of “Japanese Expression” in a Child Care Worker Training Course
— Focusing on Emotions —

菊田尚人 望月 麗
(こども学科 非常勤講師)

細田香織
(こども学科 専任講師)

要旨 短期大学教育において、学習者自身による学習内容の意味づけを促すような、振り返り活動の必要性が指摘されており、短期大学で振り返り活動に取り組むことの効果の検証も進められている。ただし、継続的な振り返りに取り組ませる活動自体に対して、学生がどのような意識を持っているのかについては明らかになっていない。

そのため、本研究では、保育者養成課程のS短期大学における基礎的な日本語力の育成を目的とした科目である「日本語表現」において振り返りに取り組むことへの意識に関する質問紙調査を行い、学習者の実情に着目した振り返り活動の実態を明らかにした。

今回の調査を通して、振り返るという行為を学習内容の正確な記録を書き残すものだと捉えている学生と自分の意見や考えといった感想や意見を書くものだと捉えている学生がおり、そうした認識の違いを考慮した活動のデザインが必要であること。分量や形式といった学習形態を含む多様な要素との相互作用によって、振り返りに対する認識が規定されるという二つの知見を得た。

【キーワード：振り返り活動 保育者養成課程 日本語表現】

1. はじめに

短期大学教育において、学習者自身による学習内容の意味づけを促すような、振り返り活動の必要性が指摘されている。たとえば、グローバル化や知識基盤社会を反映した大学教育の在り方を示している「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）⁽¹⁾」には、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材」⁽²⁾を育成するために、「事後の展開（授業内容の確認や理解の深化のための探究等）を促す教育上の工夫」⁽³⁾が必要だとある。

こうした教育行政の動向とも関わって、短期大学で振り返り活動に取り組むことの効果を検証する研究がある⁽⁴⁾。さらに、振り返り活動に取り組む学習者の実態を明らかにしようとする研究も進められている。例えば、菊田（2017⁽⁵⁾）は保育者養成課程における基礎的な日本語力を育成する科

目での振り返り活動に注目し、短期大学生がどのような観点から自身の学習を意味づけているのかについて明らかにしている。

ただし、振り返り活動に取り組むこと自体に対して、学生がどのような意識を持っているのかについては、明らかになっていない。振り返り活動に実際に取り組む学生が、振り返り活動のどのような点に意義を見いだしているか、どのような点に困難を感じているかといった活動の実態を明らかにすることは、教師が振り返り活動を改善していく上での重要な情報となり得る。しかしながら、研究レベルにおいてそうしたことが十分に検討されてきたとはいえない。

そこで本研究では、保育者養成課程のS短期大学における基礎的な日本語力の育成を目的とした科目である「日本語表現」において、振り返り活動に取り組むことを学生がどのように捉えている

かに関する質問紙調査を行い、振り返り活動に取り組むこと自体に対する学生の意識を明らかにする。

II. 方法

科目「日本語表現」は、保育者養成課程のS短期大学において、基礎的な日本語力を育成するための科目である。この科目は、S短期大学の卒業必修科目の一つであり、「二年後に保育者となることを想定しながら、場面に応じて適切に伝え、表現する力をつける」⁶こと、「日本語検定試験合格を目標に、敬語・漢字・文法・語彙・読解等の学習を行い、日本語の基礎を身につける」⁷ことの二つをねらいとしている。

学生には、この授業を通して、二つの振り返り活動に取り組ませた。一つ目は、毎回の授業後にその日の学習内容について振り返りを書く活動である。この活動では、毎時間の授業の最後や授業終了後に振り返りを書く機会を設けて、振り返りを書きためることを課題とした。学生には、学習の振り返りを書くこと以外に特別な指示は出していない。二つ目は、学期末にこれまでの学習活動を総括した振り返りレポートを書く活動である。このレポートでは、「日本語表現 I の授業を振り返って学んだことや考えたことなどをレポートにまとめましょう」という課題を設定し、半期の学習をまとめさせた。学生には、これまで書きためた振り返りを見ながら書くこと以外、特別な指示は出していない。

調査は、半期の最後の授業時間中に実施した。質問紙は、科目「日本語表現」の受講者全員に配布し、112人から回答を得た。質問紙調査の実施にあたっては、個人情報を厳重に管理し、結果を公表する際には個人が特定されないように配慮する旨を口頭で説明した。

III. 結果

1. 毎回の授業後の振り返り活動について

1) 質問項目と回答者数の整理

毎回の授業後に振り返りを書くという活動が取り組みやすい活動だったかどうかについて、学生の意識調査を行った。この調査では学生に、毎回の授業後にその振り返りを書き続けたことの難易

の程度を七段階(「とても簡単だった」「簡単だった」「やや簡単だった」「どちらともいえない」「やや難しかった」「難しかった」「とても難しかった」)で評価させ、そのように判断した理由も記述させた。質問紙調査の項目は「日本語表現 I ではほぼ毎回の授業で『振り返り』を書くという活動を行ってきました。『振り返り』を書くことは簡単でしたか、難しかったですか。当てはまる番号を選んで下さい。また、それはどうしてですか」というものである。その結果を、学生自身が抱えている国語の学習に対する自信の程度ごとに整理した。つまり、国語の学習が得意だと感じている学生と苦手だと感じている学生のそれぞれについて、毎授業後にその内容を振り返ることが難しかったか否か、そのように判断した理由は何かということを示した。

予め、高等学校での国語の学習が得意だったかどうかということ、学生自身に七段階(「大得意だった」「得意だった」「やや得意だった」「どちらともいえない」「やや苦手だった」「苦手だった」「大の苦手だった」)で評価させた。高等学校の国語の学習が「大得意だった」「得意だった」「やや得意だった」と回答した学生は50/113人だった。その中で、毎回の授業後に行う振り返り活動が、「とても簡単だった」「簡単だった」「やや簡単だった」と回答したのは、28/50人、「やや難しかった」「難しかった」「とても難しかった」と回答したのは、8/50人だった。一方、高等学校の国語の学習が「やや苦手だった」「苦手だった」「大の苦手だった」と回答した学生は34/113人だった。その中で、毎回の授業後に行う振り返り活動が、「とても簡単だった」「簡単だった」「やや簡単だった」と回答したのは、20/34人、「やや難しかった」「難しかった」「とても難しかった」と回答したのは、8/34人だった。

2) 国語学力に対して肯定的な評価をしている学生の意識

国語学力に自信のある50/113人の学生のうち、毎回の授業後で振り返り活動に取り組むことが負担ではなかったと回答した学生は28/50人、負担だったと回答した学生は、8/50人だった。

毎回の授業後で振り返り活動に取り組むことがあまり負担ではなかった学生28/50人の理由を以下に示す。

【とても簡単だった】

- その日のうちで覚えてるから
- その日学んだことを書けば良かったから
- ふりかえるだけだから
- 思ったことを素直に書けるのでわりと簡単にかけました。
- 毎授業で新しいことを知ったので、そのことについて書きました。

【簡単だった】

- その日のうちに振り返るので難しくなかった。
- その授業で教わったことをまとめるから。
- 改めてその日学んだことが整理できるから。
- その日にやったことを振り返るのは好きでした。
- 今やったものを書くだけだったから
- 自分がその日学んだことや考えたことを書いていたから。
- その日に終わったことを書くので、簡単だった。
- その日の授業で学んだことを書けば良かったから。
- その日のうちに振り返るので書きやすかったです。
- 自分が毎回の授業で学んだことを書いたから。
- 日本語表現では、知らないことも多くあり、授業の内容が分かりやすかったので振り返りやすかったです。

【やや簡単だった】

- その日のうちに書くので記憶が鮮明で書きやすかったです。
- 一週間で忘れてしまっている内容があるから。覚えていれば簡単。
- 自分の学びをまとめる時間だったため、自分がその日何を学んだのかを知ることができるため。
- その日にやって考えたことや、学んだことを書くとき自然に頭に入るような気がした。
- 思ったことを書くだけだから
- 感想を書くことは簡単だと思う
- 授業内容が明確だったから
- 授業そのものが楽しいと感じていたため、振り返りを書くのもスムーズにできたから。
- 授業展開が面白かったのでしっかり授業を聞いていたから
- 文は短くてもいいと言われたから。やったこと

に対する気づきや学びと感想を簡単にかけたから。

- 一言でまとめてしまうのは簡単だが、あまり深く書く内容は考えられなかった。
- 学習したことを書いていたから。

一方、国語学力に自信がある50/113人の学生のうち、毎回の授業を振り返ることを負担に感じていた学生8/50人の理由を以下に示す。

【やや難しかった】

- 文章を書くのが苦手なのでうまくまとめられなかったから。
- 言葉にすることが難しかった。
- 何をどうやって書けばいいかわからなかったから。
- 文を書くのが苦手
- 感想を書くのが苦手だから。
- 感想を書くのが苦手なため。
- 印象が強かったら書けるけど、それ以外はうまく思い出せなくて、書きづらくなる時があったから

【難しかった】

- 感想や振り返りを書くということがそもそも苦手だから。

これらの記述から、国語学力に自信のある学生が毎回の学習後に取り組み振り返り活動に対して抱いている意識について、以下の四つのことが指摘できる。

第一に、授業終了後すぐにその日の学習の振り返りに取り組むことが、振り返り活動に対する学生の負担感を軽減していると考えられる。学生が、振り返りに取り組むことを簡単だったと判断した理由として、授業を受けたその日のうちに振り返りをおこなっていることをあげている。例えば、その日のうちに振り返るので難しくなかった、その日のうちに書くので記憶が鮮明で書きやすかったといった回答をしている。つまり、授業内容が記憶にのこっている状態であることが、振り返りに取り組むことへの負担感を軽減するために重要であるといえる。学習した内容が記憶にのこっている方が振り返ることに負担感を感じないと回答

していることから、学生は、授業内容を再生することを振り返りであると捉えていることも分かる。学生は、授業を通して何を学んだか、どんな活動に取り組んだかについて再生的に書き示すことを振り返りだと捉えているため、授業を即時的に振り返ることが適切な振り返りを可能にしていると判断している。

第二に、振り返りに取り組むことを難しいと感じるか否かは、振り返ろうとする授業内容とも関連していることが分かる。例えば、授業が楽しかったことや授業内容が明確だったこと、授業内容が分かりやすかったことなどが振り返ることに取り組みやすく感じる理由としてあげられている。つまり、授業自体に肯定的な評価を下している学生は、振り返りに取り組むことにも肯定的な評価をしていると考えられる。

第三に、感想を書くこと自体に難しさを感じるか否かによって、振り返りが難しいと感じるかどうかが変わるといえる。感想を書くだけだから簡単だったと答える学生がいる一方、感想を書くことが難しかったと答える学生もいる。感想を書くことを難しく感じるか否かが、振り返ることに対する負担感にも関係していることから、振り返ることとは感想をかくことだと捉えている学生もいることが分かる。

第四に、国語学力に自信がある学生でも、振り返りを文章にまとめることには難しさを感じていることが分かる。例えば、文章を書くのが苦手なのでうまくまとめられなかった、言葉にすることが難しかったと答えている学生がいるため、国語学力に対して自信がある学生でも、文章を書くことに苦手意識を持つ学生は、振り返りを書くことに対しても苦手意識を持つのだといえる。さらに、どのくらいの分量で書くかといった振り返りを書くという活動の形態によっても学生が抱く負担感が変わっており、振り返ることの意識と書くことの負担感が関連しているといえる。

3) 自身の国語学力に対して否定的な評価をしている学生の意識

国語学力に自信がない34/113人の学生のうち、毎回の授業後で振り返り活動に取り組むことが負担ではなかったと回答した学生は20/34人、大変だったと回答した学生は、8/34人だった。

毎回の授業後で振り返り活動に取り組むことがあまり負担ではなかった学生20/34人の理由を以下に示す。

【とても簡単だった】

- その日やったことをただ書くだけだったから
- その時に習ったことを思い出して振り返るだけだからです。
- 思っていることを一文でも書くだけでOKだったから、楽だった。

【簡単だった】

- 今日やったことをそのまま書いていただけだからです。
- その授業のことを思い出しながら書けば難しくはなかった。
- 高校で、ときどきしていたので、少しそれが身についたのだと思います。

【やや簡単だった】

- 授業の内容があったから
- 授業で学んだことを書いていたから
- その日の授業で学んだことを書いていたから。
- 覚えていることを書くから
- 内容をまだ覚えていたから。
- 授業の後すぐ書いたので書きやすかった
- その日に振り返るので書きやすかった。忘れかけてしまったものも、思い出すことがよくあった
- その日の授業のうちに書いていたので何をやったかちゃんと覚えていたので書きやすかったです
- 高、中で行ったことだったから難しくはない
- 文の構成が上手下手はおいておいて書くことはそれほど苦手ではなかったから。
- 自分の考えや、学んだことを書けたのでまた頭に残りました。
- 授業でやったことが明確だったから
- 書きやすかった。
- 何を書けばいいのか分からない

一方で、振り返りを書くことを負担に感じている学生もいる。自身の国語学力に対して否定的な評価をしている34/113人の学生のうち、毎回の

授業を振り返ることに難しさを感じていた学生 8/34 人の理由を以下に示した。

【やや難しかった】

- 文字をまとめることは難しいと思った
- 毎回書くのは正直言うと大変でした。単元が変わるときにまとめて書いた方が良くと思います
- とても自分の言葉にするのは大変だった
- 文章をまとめるのが苦手だったから
- なんて書けばいいのかわからなかった
- どのようにまとめていいのかわからなかった
- 感想を書くのが苦手なので

これらの記述から、国語学力にあまり自信のない学生が毎回の学習後に取り組む振り返り活動についてどのような意識を持っているかに関して、以下の三つのことが指摘できる。

第一に、国語学力にあまり自信がない学生の場合でも、振り返りを授業終了後すぐに行うことが、振り返りに取り組むことへの負担を軽減しているといえる。国語学力に自信のない学生も、授業を受けたその日の内に振り返りをおこなったことで、振り返りを書くことは難しくなかったと答えている。例えば、その日やったことをただ書くだけだったから、その時に習ったことを思い出して振り返るだけだったから簡単だったといった回答がある。このことから国語学力に自信のない学生にも、振り返ることが授業内容を再生することだと捉えられていることがわかる。

第二に、振り返りを難しく感じるかどうか、振り返りを書いた経験の違いによっても変わることが分かる。例えば、振り返ることが簡単だったと答えた理由として、中学校や高等学校のときに振り返りを書く活動をやったことがあるからだと回答している学生がいる。つまり、振り返りを書いた経験があることで、振り返りを書くことの負担が軽減される場合があるといえる。その一方で、なにを書けばいいのかわからない、どのようにまとめればいいのか分からないため難しかったと答えた学生もいる。振り返りを書くという経験がないことで、振り返りを難しく感じる場合もあるといえる。

第三に、国語学力に対する自信の程度に関係なく、感想を書くこと自体に抵抗感を持つか否かに

よって振り返りを負担に感じるかどうかが変わるといえる。感想を書くだけだから簡単だったと答える学生がいる一方、感想を書くことが難しかったと答える学生もいるためである。振り返ることとは感想をかくことだと捉えている学生にとって、感想を書くことに対する意識がそのまま振り返り活動に取り組むことへの意識にもなっていることが分かる。

第四に、国語学力に対する自信の程度に関係なく、書くことに対する意識がそのまま振り返ることに対する意識にも関係しているといえる。どのように振り返りをまとめればいいのか、何を書けばよいか分からないといった回答があることから、振り返りを文章に書くことに対する抵抗がそのまま振り返ることに対する抵抗となっているといえる。一方で、書くことはそれほど苦手ではなかったから、一文でも書けばよかったから負担に感じなかったという回答もある。つまり、書くことに抵抗が少ない学生は、振り返りを書きつづけることにも抵抗が少ないといえる。

2. 学期末の振り返り活動について

1) 質問項目と回答者数の整理

学期末には、これまで書いた振り返りの記録を見ながら前期の学習を振り返るといった活動を設けた。この活動は、学生にこれまで書きためた振り返りを見ながら、前期の学習についてまとめるレポートを作成させる活動である。レポートを作成し終えたのちに、この振り返り活動が取り組みやすい活動だったか否かを学生に回答してもらい、その結果を整理・分析した。質問紙調査では、「今回取り組んだ『振り返りレポート』を書くという活動は簡単でしたか、難しかったですか。当てはまる番号を選んで下さい。また、それはどうしてですか。」という質問項目を設け、学期末の振り返り活動に対する自身の取り組みについて答えてもらった。学生は、学期末の振り返りを書くことの難易の程度を七段階（「とても簡単だった」「簡単だった」「やや簡単だった」「どちらともいえない」「やや難しかった」「難しかった」「とても難しかった」）で評価し、その理由を記述している。

高等学校の国語の学習が「大得意だった」「得意だった」「やや得意だった」と回答をした学生 50/113 人の中で、毎回の授業後に行う振り返り活

動が、「とても簡単だった」「簡単だった」「やや簡単だった」と回答したのは、28/50人、「やや難しかった」「難しかった」「とても難しかった」と回答したのは、8/50人だった。一方、高等学校の国語の学習が「やや苦手だった」「苦手だった」「大の苦手だった」と回答をした学生は34/113人だった。その中で、毎回の授業後に行う振り返り活動が、「とても簡単だった」「簡単だった」「やや簡単だった」と回答したのは、20/34人、「やや難しかった」「難しかった」「とても難しかった」と回答したのは、8/34人だった。

2) 自身の国語学力に対して肯定的な評価をしている学生の場合

国語の学習に自信のある50/113人の学生のうち、学期末に行う振り返り活動が、難しくはなかったと回答した学生は21/50人、難しかったと回答した学生は、19/50人だった。

学期末に行う振り返り活動が、難しくはなかったと回答した学生は21/50人の理由を以下に示す。

【とても簡単だった】

- まとめたやつを見たから
- 思い出して書くだけだったから

【簡単だった】

- 今までの授業でしっかり振り返りをしていたから
- 学んだことを書いていたから
- やったことたくさんあったから
- レポートと言うよりもまとめのようになってしまったけどやったこともたくさんあったので書くのもすぐ書けました
- 学んだことを素直に書いたので簡単でした
- 今までの学びがあったから
- ちゃんと振り返ることができたというのもあるし、私にとって充実した講義だったから
- 自分の分からなかったことと、苦手だったことを振り返ることができたから
- 考えればちゃんと文は出てくるし、敬語をたくさん知れたから

【やや簡単だった】

- 振り返りシートを見ながら書いたのでそんなに

難しくなかった

- 学んだことを思い出しながら書くことは難しかったですがプリントを見ることで書きやすかったです
- レポートを書く資料があったから
- 時間がかかってしまいましたが、プリントを振り返りながらだったので、書きやすかったです
- 今までの振り返りをしっかりと書いていたから
- 振り返りのプリントがあったので書きやすかった
- 今までどのようなことを学んできたかを文字で表すことで整理ができた

一方で、学期末に行う振り返り活動が難しかったと感じている学生もいる。毎回の授業を振り返ることに難しさを感じていた学生19/50人の理由を以下に示した。

【やや難しかった】

- 文字もたくさん書くのが苦手だから
- たくさんの文章を書かなくてはいけなかったから
- 短く文章をまとめるのが大変だったけど、時間がたくさんあったのでなんとか書ききれました
- 今までの授業をまとめて書かなくてはいけなかったから
- まとめたり、組み合わせることが大変だった
- 今までのをまとめるのが大変でした
- レポートにするのは少し難しい
- 思い出しながら書くので難しかった
- 記憶力がないので、忘れてしまっていることが結構あったから
- 今まで学んだことを振り返りながら書くのは少し難しかったです
- 書き始めは何を書こうかと思ったけど書いてみたら意外と書けた

【難しかった】

- 文章構成力がないため。行数指定があると全て書かないと思うので、全て埋める努力はした
- 量多い
- 文章が苦手
- レポート系が苦手だから。文章考えるのが苦手です
- 感想や振り返りを書くということがそもそも苦手だから

これらの記述から、国語学力に自信のある学生が学期末に取り組む振り返り活動について抱いている意識に関して、以下の二つのことが指摘できる。

第一に、振り返りを書きためてきた記録が、学期末に取り組む振り返り活動の負担感を軽減していると考えられる。学生の回答には、今までの授業でしっかり振り返りをしてきたから難しくなかった、振り返りシートを見ながら書いたので難しくなかったといった記述が見られる。つまり、学生は、繰り返し振り返りに取り組んできた記録を見ることによって、学期末にこれまでの学習を総括するような振り返り活動にも抵抗なく取り組むことができたといえる。また、振り返りとして記録が残っていることで、学期末の振り返りを書くときの負担感が軽減されていることから、学生にとって、振り返ることはこれまでに何を学習してきたか再生することだと認識されていることが分かる。学生は、授業を通して何を学んだか、どんな活動に取り組んだかについて書くことを振り返りだと捉えていることから、その資料となる記録が振り返ることの負担を軽減しているのだといえる。

第二に、国語学力に自信のある学生でも、振り返りをまとめた文章として書くことに対して難しさを感じているといえる。国語学力に自信のある学生でも、振り返りを書く分量が多いことに対し負担だったと答えている記述が見られる。毎回の授業後に取り組む振り返りと違って、書く分量が必然的に多くなるため、そのことに抵抗を感じているのである。合わせて、毎授業後に取り組む振り返りを書く用紙よりもレポート用紙自体が大きかったため、その用紙のサイズに合わせた分量を書かなければならないと考えた学生も多かったようである。学生の中には、行数指定があると全て書かなければならないと感じ、それが大変だったと回答しているものもある。このように振り返りをどのように書かせるかという学習形態によって、振り返りに対して抱く意識も変化しており、振り返りという教育的行為よりも、それに関わって一定量の文章を書くことに負担を感じる場合があったことが分かる。

3) 自身の国語学力に対して否定的な評価をしている学生の場合

国語の学習に自信がない34/113人の学生のうち、学期末に行う振り返り活動が、難しくはなかったと回答した学生は11/34人、難しかったと回答した学生は、9/34人だった。

学期末に行う振り返り活動が、難しくはなかったと回答した学生は11/34人の理由を以下に示す。

【とても簡単だった】

- 今までの振り返りシートがあったので書けた。それを見ずに書けと言われてたらとても難しかったと思います。
- しっかり授業を受けたので
- 今までの振り返りをしただけだからです。

【簡単だった】

- プリントを見れば埋められたし、毎回の授業が楽しかったから。

【やや簡単だった】

- 毎回の振り返りプリントがあったから
- 自分で書いた振り返りでなんとなく内容を思い出せたから
- 書くことは沢山あったがまとめることに少し考えた。
- きちんとプリントを保管していたから
- 今まで使ったプリントなどを見て書いたから。
- 覚えている授業が多かったので書きやすかった

一方、学期末に行う振り返り活動が、「やや難しかった」から「とても難しかった」までの否定的な評価をしたのは、9/34人だった。その理由を以下に示した。

【やや難しかった】

- 文章を多く書くことは、難しいと思う。
- 全体をまとめるのが苦手だったから。
- とても自分の言葉にするのは大変だった。
- 書くことがすらすら出てこないから
- 毎回の振り返りで日付を書いていないのでいつ学んだのか分からなかったです。
- 最初の方で学んだことは、ノートを見てやっていたので、忘れてしまっていることがあり大変

だった。

【難しかった】

- 文章を書くのが苦手だから
- もともとまとめるのが苦手だから

【とても難しかった】

- 文を書くのが好きじゃないから苦手

これらの記述から、あまり国語学力に自信のない学生が学期末に取り組む振り返り活動について抱いている意識に関して、自身のある学生と同じように、記録があることによって振り返ることの負担が軽減されているといえる。その一方、文章を書くことへの抵抗がそのまま振り返ることへの抵抗となっていることも分かる。

IV. まとめと今後の課題

今回の調査では、振り返りを書く活動に対して、学生がどのような意識を持っているのかについて明らかにした。振り返りという学習活動に取り組む学生の意識について、以下のような二つのことが指摘できる。

第一に、学習したことを振り返るといふ活動自体の捉え方が学生によって異なっていることがわかる。振り返りとは、学習した内容を正確に記録したり、まとめたりするものだと思っている学生と自分の意見や考えといった感想を書く必要があるものだと捉えている学生がいる。そのため、振り返りを書く際に、どのような記述をするのが望ましいかという振り返りの規範が学生によって異なっているといえる。さらに、どのような記述が望ましいかが自分自身では判断できないため、何を書けばよいのかわからなかったと回答する学生もいた。そのため、振り返るといふ行為自体の捉え方が学生によって多様であることを考慮した上で、教師は学習としての振り返り活動をデザインする必要があるといえる。

第二に、多様な要素との相互作用によって、振り返りに対する認識が規定されていることがわかる。例えば、文章を書くこと自体に負担感を感じている学生は、そのまま振り返りを書くことに対しても否定的な認識をもっていた。つまり、振り

返りの形式や振り返りを書く分量といった、振り返り活動の形態によっても、振り返りに対する意識は変わってくるのが分かる。さらに、学習内容自体が振り返りとして書きやすいものであったか否かといった学習活動それ自体、これまでに振り返り活動に取り組んだことがあるかどうかといった個々人の学習経験の違いも、振り返り活動に対する意識の多様さに反映していた。これらのことから、教師自身がなぜ振り返りに取り組むのかという目的を明確に意識した上で、それに見合った教育活動を総合的にデザインしなければならないといえる。

今後の課題として、具体的な振り返りの記述との関連についても明らかにしていきたい。

- 1 中央教育審議会. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申). 2012. http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf, (2017-10-29)
- 2 同上, p.9.
- 3 同上, p.10.
- 4 藤田光子. 音楽科模擬授業における学生相互の評価活動について—指導法の学習の質を考える—. 別府大学短期大学部紀要, 2017, 36, pp.47-57.
- 5 菊田尚人. 保育者養成課程における「日本語表現」での振り返り活動について—学期末レポートの記述に着目して—. 埼玉純真短期大学研究論文集, 2017, 10, pp.45-51.
- 6 2017年度のS短期大学の開設授業シラバスから, 科目「日本語表現I」の「授業のねらい」を転載した。
- 7 2017年度のS短期大学の開設授業シラバスから, 科目「日本語表現I」の「授業のねらい」を転載した。